

<企業調査レポート>

フォーカスシステムズ

4662 東証1部

2021年3月24日

執筆：株式会社アルフィナンツ

金融アナリスト 田嶋智太郎

<フォーカスシステムズとは>

■一口に言うと“レジリエント”で“サステイナブル”な会社です。

- “レジリエント”とは「強くてしなやかな対応力を有するさま」。
*フォーカスシステムズには、いかなる危機をも柔軟に力強く乗り越えてきた過去の実績があり、今現在も常に時代の変化に柔軟に対応したイノベーティブな製品、サービスを提供し続けています。
- “レジリエント”という言葉には「質実剛健」という意味も含まれます。
— 質実剛健とは：飾り気がなく真面目で、強くしっかりしていること（広辞苑）—
*フォーカスシステムズは、とにかく真面目で、取引先・従業員・株主など、すべてのステークホルダーを長らく大切にしてきました。
*フォーカスシステムズの企業スローガンは「テクノロジーにハートを込めて」です。



- “サステイナブル”とは「高い継続性・持続性を有するさま」。
*フォーカスシステムズの設立は1977年。以来、長きに亘ってすべてのステークホルダーを中心とする様々な人々と“信頼の実績”を築き続けてきています。
* “信頼の実績”は、日本アイ・ビー・エムやエヌ・ティ・ティ・データ関連企業といった有力企業との長きに亘る取引の継続によって売上高全体の5割近くを挙げていることから証明されます。

■まさに、時代の最先端を行っている会社です。

- フォーカスシステムズはトータルソリューションを提供する“総合情報サービス企業”です。
*このトータルソリューションを支えているのは主に以下の3つの事業です。
システムインテグレーション：より豊かな生活をシステムで実現します。
ITサービス：システムの可能性と信頼性を追及します。
情報セキュリティ：情報化社会のリスクをコントロールします。
- 政府が進めるDX（デジタルトランスフォーメーション）の実現において競争優位にあります。
*フォーカスシステムズは、公共・金融・通信制御・業務アプリケーション等を揺るぎない安定基盤としたうえで、既存システムを熟知し、AI・RPA・IoT・クラウド等の新たなデジタル技術の活用も柔軟に行える希少性があります。

※ **注目ポイント**：フォーカスシステムズには今、大きく2つの追い風が吹いています

1. “レジリエント”で“サステイナブル”な企業への投資を積極化する**市場の追い風**
2. 国を挙げてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進しようという**時代の追い風**

■ ESG（環境・社会・ガバナンス）投資の観点からも高い評価が与えられる会社です。

●フォーカスシステムズは『ダイバーシティ経営』の実現に注力しています。

- *女性活躍推進法に基づく優良企業として「えるぼし認定」を取得しています。
- *現在推進中の「第2回行動計画」においては、2022年度末までに女性新卒入社社員の入社5年以内の定着率を現在の35%から50%以上へ引き上げることを目標とし、「両立支援制度の個別告知」や「社員の育児参加支援」、「若手女性社員向けのキャリア形成支援」などの対策を講じています。
- *多くの障がい者が長く働ける環境を整備しています。
障がい者雇用の新たな職域創生を目指し、水耕栽培による野菜の生産業務を2015年に開始しました。また、現在は事務系職域の開拓も推進しています。



●フォーカスシステムズは「ワークライフバランス」実現のための取り組みを強化しています。

- *性別や年齢にかかわらず、個人のライフスタイルやライフサイクルに合わせた働き方の選択ができ、仕事と生活との調和を図ることができる会社を目指しています。具体的には「定時退社日」の導入や「ジョブリターン制度（再雇用制度）」の導入、「短日、短時間勤務制度」の充実に努めています。
- *子育てサポート企業として「くるみん（次世代育成支援）」認定を取得しています。すべての社員が安心して就業し、仕事と子育てのワークライフバランスを保ちながら、その能力を十分に発揮できるよう労働条件の整備を行うことを目的とする行動計画を策定し、その実行に努めています。

●フォーカスシステムズは『健康経営』の推進体制を強化しています。

- *2020年3月2日、経済産業省および日本健康会議が共同で優良な健康経営を実践している法人を認定する「健康経営優良法人2020（大規模法人部門）」に選定されました。

●フォーカスシステムズは、環境負担削減のための活動に取り組んでいます。

- *「環境経営指針書」に沿って施策推進を図り、以下の3点を環境目標としています。
 1. 省エネ：電力・ガス消費の削減
 2. 省資源：コピー用紙使用量の削減
 3. 廃棄物削減・リサイクル推進：分別廃棄、リユース、古紙回収

（主な過去の実績）



※注目ポイント：女性活躍推進をはじめとする「ダイバーシティ経営」や「健康経営」等に積極的に取り組む姿勢は近年、市場においてとりわけ厳しくチェックされる重要項目の一つとなっています。

<主な事業内容は>

■システムインテグレーション

●フォーカスシステムズは、独自の技術力を駆使したシステム開発を通じて、官公庁や大手民間企業との安定した取引関係を長期に亘って構築してきました。

*公共システム 「社会保険システム」「航空管制システム」「貿易流通システム」「医療事務システム」など、社会を支える公共システム分野に多くの実績を有します。高い信頼性や深い業務理解が求められるこれらのシステム開発がフォーカスシステムズの事業基盤です。

*通信制御システム 強みとしている通信ネットワーク分野では、通信関連の有力企業との取引関係を強固に築き、ネットワーク仮想化技術（クラウド）を用いた公衆網におけるプラットフォーム開発や、携帯電話の基地局、ルータやゲートウェイなど、通信制御装置のファームウェア開発を行っています。

*組み込みシステム 携帯電話、スマートフォンなどの情報通信機器の制御開発で培った技術力で、カーエレクトロニクスやデジタルカメラ、医療端末、ウェアラブル端末などの組み込み型ソフトウェアの受託開発を行っています。

*業務アプリケーション システム共通基盤である「intra-mart」、「ERP製品」などのグループウェアを用いた「Webアプリケーション」や「クラウドアプリケーション」のソリューション提案から開発、保守までを行い、様々な業種の顧客環境に合わせた業務改善・効率化を実現します。

*I o T 自社製品である「FCS1301」や「Timbe」などのビーコン（何かを誘導したり、信号を送ったりするものを指す）製品を活用したI o Tソリューション提案を行っています。その中で、組み込み制御技術や通信技術を活用するなど、これまでの経験から培った技術や幅広い視点を活かし、I o T分野の拡大を図ることで自社ブランドの強化を進めています。

■ITサービス

●フォーカスシステムズは、時代の劇的な変化とともに設立当初の“システム受託開発型企業”から“総合情報サービス企業”へと業容を拡大してきました。現在では、情報システムに関するコンサルティングから開発、運用・保守を含めた一貫体制を確立しています。

*インフラ設計・構築 進化の速いオープン系システムにおいて、ハードウェア周り・ネットワーク・OS・ミドルウェアなどインフラの構築から、アプリケーションソフトの開発まで、最先端技術を駆使した設計・構築を行っています。

*技術サポート業務 ハードウェア環境、ネットワーク、OS、ミドルウェアの問題解決や、ハードウェアのパフォーマンス向上の支援などを技術者に対して行うことにより、先端技術を必要とする顧客環境の構築を支えています。

*運用サポート業務 ソフトウェアにおける「業務上の問題解決」や「顧客要求」の実現、およびハードウェアを含めた障害発生時の復旧対応を実施する業務です。ヘルプデスクを設置しての電話による技術サポート、技術力提供による運用システムのサポートを行っています。

■情報セキュリティ

●最先端ICTをベースとして新たなソリューションを創造するフォーカスシステムズは、あらゆる人がIT環境を活用するようになった今、誰もが避けて通れない「情報リスク」をコントロールする情報セキュリティ事業も得意としています。自社セキュリティ製品の提供をはじめ、顧客システムへのセキュリティ

機能の組み込みなど幅広くサポートしています。

***暗号技術** 技術革新やインターネットの普及により、デジタル化された情報資産は様々なリスクに晒されています。フォーカスシステムズは、これまでに培った暗号技術のノウハウを基に、先進的な製品や技術を駆使して顧客の情報資産を守るトータルセキュリティを展開しています。

***電子透かし** SNSやデジタル化されたコンテンツなどの普及によって、デジタルコンテンツ保護の重要性が高まっています。そのような社会的ニーズに応えるため、「電子透かし」を始めとしたデジタルコンテンツにおける著作権保護ソリューションを提供しています。

注目ポイント：真のトータルソリューションを提供するためには、場合により取引相手が一般に秘匿としている重要情報や固有の業務知識に深く通じていることが必要になります。その点において、フォーカスシステムズが長い取引実績のなかで築いてきた相手との強い信頼関係は非常に強い“武器”となるのです。そこがDX時代において同業他社との差別化につながると思われることもできるでしょう。

<最近の業績動向は>

■ 2020年3月期まで10期連続で増収、3期連続で増益を続けてきました。

● 2016年3月期～2020年3月期の業績推移は以下のとおりです。



2016	2017	2018	2019	2020
16,482	17,846	19,327	21,453	22,703



2016	2017	2018	2019	2020
953	743	1,025	1,368	1,428



2016	2017	2018	2019	2020
950	731	1,019	1,375	1,467



2016	2017	2018	2019	2020
738	551	719	874	930

* 2017（平成29）年3月期は、売上が過去最高を更新したものの、公共関連事業において一部のプロジェクトに進捗遅れが発生した結果、コストが増大したことを一因に営業利益段階から減益となりました。

* また、2017年3月期の当期純利益については2016年3月期に2億円余りを特別利益として計上した有価証券売却益が大幅に減少したことも影響したものと見られます。

* つまり、趨勢的な増収増益基調を途絶させるような要因による減益ではなく、実際に2018年3月期以降は再び業績の拡大が続くこととなりました。

● 2021年3月期業績の「第3四半期の実績」と「通期の会社予想」は以下のとおりです。

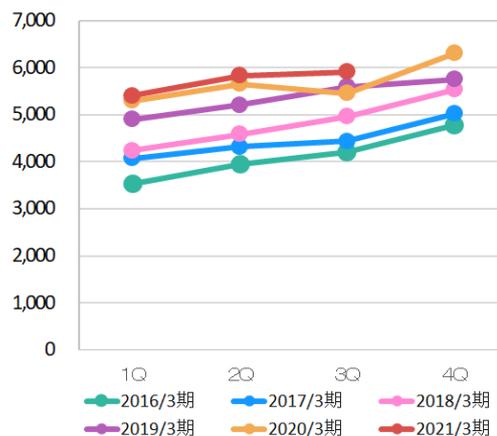
（百万円未満切り捨て／3Qは1Q～3Qの累計）2020年11月13日時点

	2021年3月期3Q（前年同期比）	2021年3月期通期（前期比）
売上高	17,149（4.5%）	22,800（0.4%）
営業利益	1,126（5.9%）	1,430（0.1%）
経常利益	1,139（4.7%）	1,430（▲2.6%）
当期純利益	774（5.5%）	940（1.0%）
一株当たり純利益	51.46円	62.43円
年間配当金		24円（特別配当4円）

配当（円）および配当性向（%）



四半期別売上高



注目ポイント

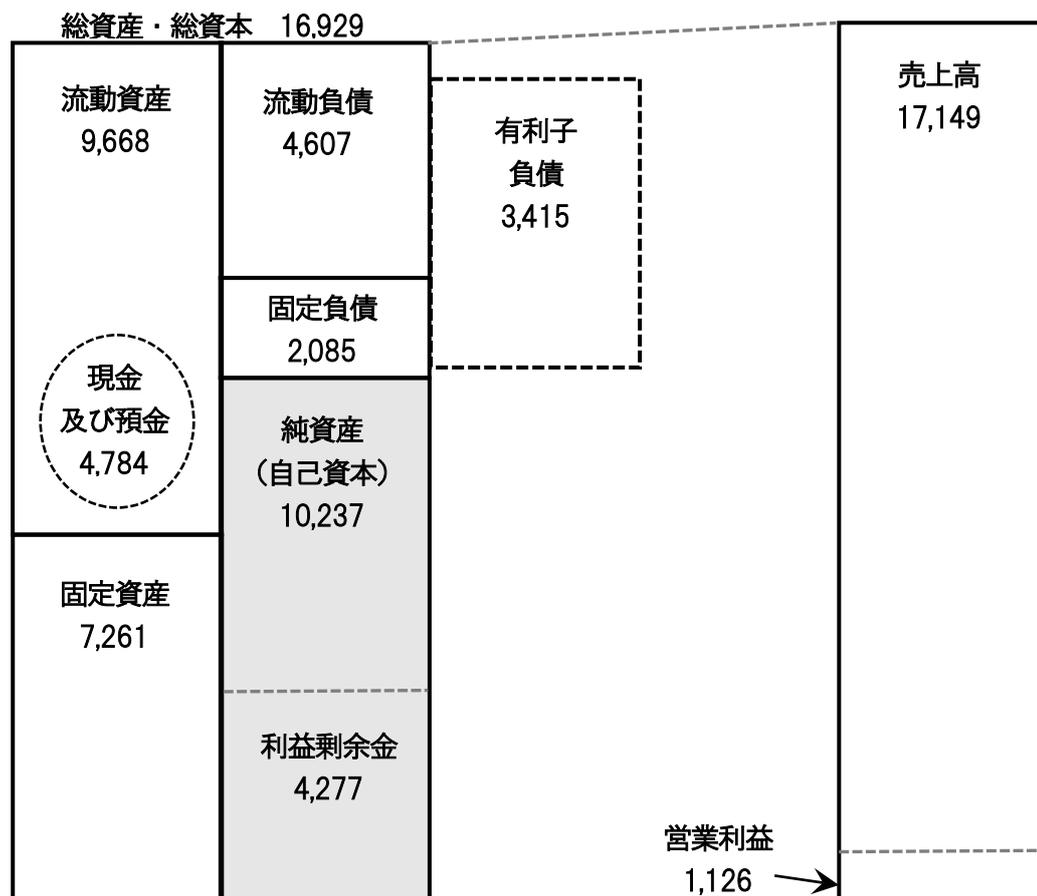
- * **コロナ下にも拘らず好実績**：1Q～3Qは、コロナ禍によって案件の延期・中止及び営業活動・出張の制約等により事業活動が一時滞りを見せることもあった時期にあたります。
- * **通期実績は上振れする可能性**：3Q時点の当期純利益は通期予想の82%に達しています。
- * **2021年3月期の売上高は過去最高を更新する見込み**：過去の四半期別売上高の推移から4Qの伸びが比較的大きい（年度末に完了するプロジェクトが多い）傾向も見て取れます。
- * **2021年3月期は最高益を更新する見込み**：当期純利益の過去最高は2020年3月期の9.3億円であり、会社予想どおりの結果であったとしても連続で最高益を更新しそうです。
- * **予想PER（株価収益率）は16倍台**（3月23日現在）：当期純利益が会社予想を上回れば、当然、株価の割安度が一層増すこととなります。
- * **特別配当（4円）を実施**：2021年3月期の年間配当は、2020年3月期の記念配当（5円）が消滅するも、代わりに4円の特別配当が実施される予定となり、配当性向30～40%程度の安定配当が続けられています。なお、配当利回りは2.4%（3月23日現在）です。

<足下の財務状況は>

■貸借対照表（２０２１年３月期第３四半期時点／百万円）

●健全性と安全性が高いだけでなく、将来に向けた積極拡大型の経営姿勢も垣間見られます。

*代表取締役社長の森啓一氏は、監査法人と税務会計事務所の出身であり、フォーカスシステムズ入社後も長らく間接部門の強化と財政状況の健全性維持に努めてきた人物です。



- ◆総資産（総資本）＝16,929（百万円） 自己資本＝10,237（百万円）
財務レバレッジ＝1.65倍 自己資本比率＝60.5% 有利子負債比率＝33.3%
- ◆売上高＝17,129（百万円） 総資本回転率＝1.01
純利益＝774（百万円） 当期純利益率＝4.51% ROE＝7.5%
- ◆キャッシュフロー・2021年3月期2Q時（カッコ内は2020年3月期）
営業CF＝931（746） 投資CF＝▲88（▲587） 財務CF＝399（▲874）

注目ポイント

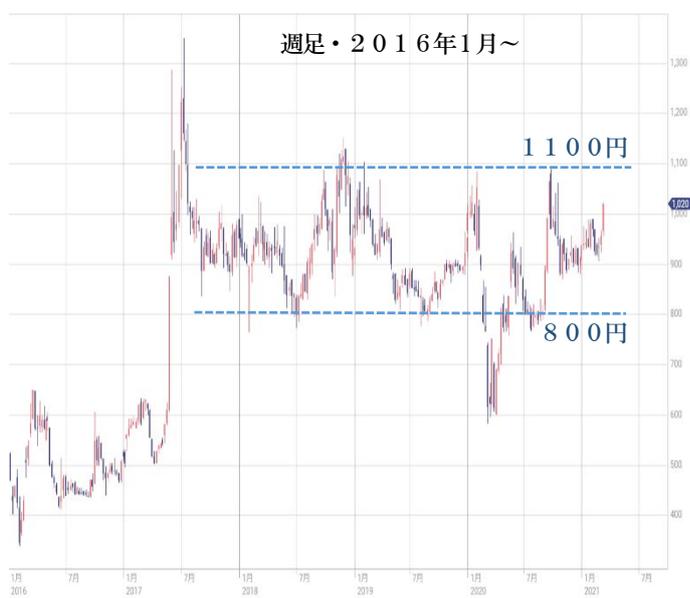
- *流動比率が非常に高いうえ、積年で積み上げた十分な利益剰余金を内包する純資産も豊富です。
- *自己資本比率は上場企業の平均（大よそ44%）を優に上回っており、経営の安全性が高いと言えます。また、売上高が総資本を上回っており、資本の使用効率も悪くありません。
- *自己資本利益率（ROE）は最終的に10%近くに達する可能性が高いと見られます。
- *キャッシュフローの状況からは、積極拡大型の戦略的姿勢を窺い知ることができます。

<最近の株式の状況は>

■株価は長らく一定レンジ内で安定的に推移してきました。

* 2017年5月に一時株価が急騰した以降は、大よそ800円処~1100円処のフラットなレンジを形成してきています（コロナ・ショック時を除く）。よって、今後1100円処のレンジ上限水準をクリアに上抜けると、そこから一気に上値余地が広がる可能性が高いと思われます。

* 「デジタル庁」の発足をはじめとした国を挙げてのDX（デジタルトランスフォーメーション）推進という強力な追い風を受けて、既存顧客の深ぼり、新規顧客層の拡大が急ピッチで進むと見込まれるなか、フォーカスシステムズの業容・業績に対する拡大期待から株価のパフォーマンスもこれまでとは異なる新たなフェーズに突入する可能性があります。



●株価（2021年3月23日現在）

1009円

●PER（予想）= 16.02倍

PBR（実績）= 1.47倍

* バリュエーション面から見て、足下の株価に割高感を感じられません。

* むろん、2021年3月期の通期業績が上ぶれし、さらに2022年3月期の予想が市場の想定を超えるものとなった場合は、それだけ割安感が出てくるものと思われます。

●配当利回り= 2.4%

* 東証1部の平均値= 1.6%よりも高水準にあります。

●時価総額= 164億円

* 2022年4月の東証再編後、新設される「プライム市場」に移行すると同時に、東証株価指数（TOPIX）の構成銘柄としても十分に基準を満たすものと見られます。

■株主優待制度も充実しています~人気の商品（Web）カタログ・タイプです。

●対象は、毎年3月末時点の株主名簿に記載・記録された2単元（200株）以上保有の株主です。

* 保有株式数に応じたポイント（1ポイント約1円）が贈呈され、そのポイントは株主限定特設サイト「フォーカスシステムズ・プレミアム優待倶楽部」において好みの商品（食品やワイン、電化製品、こだわりの雑貨など約2000種類以上の厳選された商品）と交換できます。

* 保有株数と贈呈ポイントの例

200~299株	1000ポイント
300~399株	2000ポイント
..... ~
1000~1999株	9000ポイント
..... ~
3000株~	23000ポイント

（商品例1）



（商品例2）



<最近のニュース・トピックス>

■ERPパッケージ「Biz J」でブロードリーフの新基幹システムを更改

株式会社ブロードリーフの新基幹システムを、株式会社NTTデータ・ビスインテグラルが販売するERPパッケージソフトウェア「Biz J」(ビスインテグラル)で更改し、2021年2月に本格運用を開始しました。この基幹システム更改プロジェクトには、以前よりブロードリーフの商品開発を支援していたフォーカスシステムズが参画し、システム導入に先立ってブロードリーフの既存業務分析を行い、その分析結果に基づいて業務標準化を行いました。新基幹システムでは、日々の激しいITサービス業に順応すべく、基幹業務システムと情報系システムの一体動作を実現。今後はバックオフィスの業務効率が大幅に改善される見込みです。

(2021年2月10日)

■SAP関連ビジネスを戦略的に拡大

フォーカスシステムズは、SAPジャパン株式会社との間でSAP Partner Edge契約を締結し、SAP関連ビジネスに本格参入しました。同ビジネスの拡大にあたっては、2020年12月1日付で富士フィルムシステムズ株式会社よりSAP(外販)関連事業を譲り受けています。SAPはERP(基幹システム)製品のマーケットリーダーであり、今後は既存のERP関連事業と併せて大規模から中小規模企業まで幅広い顧客を対象に基幹システムを中心としたデジタルビジネスに推進を提案できるようになります。

(2020年12月1日)

■株式会社FRONTEOと業務資本提携を締結

FRONTEOは、独自開発の人口知能(AI)エンジン「KIBIT(キビット)」及び「Concept Encoder(コンセプトエンコーダー)」を柱とする高度な情報解析技術を有し、コア事業のライフサイエンスAI分野では、認知症診断支援AIの開発が言語系AI医療機器としての承認・上市に向けて大きく前進しているところです。この言語系AIとフォーカスシステムズの画像系AIが組み合わせると、心血管疾患に関する発症予測や治療法の革新、発症後の患者動向の予測に関する統合的なシステム開発につながる可能性があります。こうした取り組みを通じて、対象疾患患者のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上を図り、さらに対象となる疾患の範囲を広げることで医療従事者の負担軽減など社会的問題の解決を目指します。

(2020年11月16日)

■グループワークを見える化し、教育・研修を支援するシステムの共同研究に着手

グループワークにおける話し合いの様子をテキストやグラフ等でリアルタイムに見える化し、講師のファシリテーションを支援する教育・研修システムの開発にハイラブル株式会社と共同で着手しました。遠隔地にいる講師がグループ単位で“リアルタイム”に把握できる本システムは業界初です。これは、音環境分析技術や議論分析技術といった特許技術をコア技術に持つハイラブル社と、企業の個別要望に細やかに応えることが可能な独立系Sierであるフォーカスシステムズとのコラボレーションならではの取り組みと言えます。

(2020年10月23日)

■AIの自然言語処理を活用した製品安全業務支援システムの開発を受託

独立行政法人製品評価技術基盤機構から、AIの自然言語処理を活用した「製品安全業務支援システムの開発」を受託しました。フォーカスシステムズは、これまでに自然言語処理のノウハウを着実に蓄積してきており、今回の受託はそのノウハウと長らく培ってきたシステム開発の技術力が評価された結果と考えられます。今後は、自然言語処理を利用したシステム開発の経験を活かし、これまで複雑で手間のかかっていたデータ管理や入力作業を簡略化し、職員の負担軽減及び業務効率化を実現して行くことが大いに期待されます。

(2020年10月20日)

■脳核医学の領域においてA Iを用いた検査時間短縮の共同開発を開始

脳核医学検査（核医学検査は臓器に異常が現れる前の兆候を読み取り、病気の早期発見を可能にします）におけるA Iを用いた検査時間短縮の研究を、横浜市立大学医学部放射線診断学教室と共同で開始しました。A Iの技術を用いることにより、検査期間を通常のおよそ5分の1に短縮することを目指します。これにより患者の苦痛を軽減したり、検査を断念する事態を避けたりすることができるだけでなく、より多くの患者を診断して適切な治療につなげていくことが可能になります。（2020年7月30日）

■虚血性心疾患を対象とした冠動脈イメージングにおけるA I解析ソフトの開発に着手

昭和大学医学部循環器内科の新家敏郎教授及び株式会社マイクロンと、虚血性心疾患における冠動脈内のイメージング画像を解析するA Iソフトの開発に着手し、2021年度中の臨床現場での実用化を目指します。冠動脈のA I画像診断により心筋梗塞の発症予測が可能となり、治療法の革新につながる可能性があります。（2020年5月25日）

■相転移物質の利用による三次電池の高電圧化に成功

国立大学法人の筑波大学と国立高等専門学校機構の群馬工業高等専門学校の研究グループが、相転移を示すコバルトプルシャンブルー類似体を配置したビーカーセル型三次電池を試作し、摂氏13度から47度への昇温で120mV程度の起電力の発生に成功しました。三次電池は、どこにでもある室温付近の環境熱で充電できる自律分散電源であり、交換・管理が不要であることから、政府が進める「Society 5.0」の実現に必須の技術の一つとされています。なお、本件は科学研究費補助金と村田学術振興財団、国際科学技術財団、熱・電気エネルギー技術財団の研究助成、およびフォーカスシステムズの共同研究の成果です。（2020年2月6日）

【免責事項】

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的として作成されたもので、有価証券の取り引き及びその他の勧誘または誘引を目的とするものではありません。いかなる場合におきましても、投資の最終決定は投資者の判断と責任において使用されるべきものであり、レポートの発行元は一切の責任を負わないものとします。また、本レポートの内容はすべて作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。なお、本レポートの著作権は発行元に帰属します。本レポートの無断複製、販売、使用、公表及び配布を行うことは法律で禁じられています。

本レポートに関するお問合せ：

株式会社フィナンテック 〒107-0052 東京都中央区日本橋兜町13-1 兜町偕成ビル別館4F

Mail: report@finantec-net.com

TEL:03-4500-6880 FAX:03-4500-6888